

II. 上記の食品群ほどダイオキシンとの関連が強くない食品については、以下の頻度を尋ねる。
これについても現在の状況と妊娠前1年間の平均的な頻度を尋ねる。

頻度と目安量との比較は次の数値で表す。（上記の頻度と異なるので、要注意）

頻度：1. ほとんど食べない 2. 月に1～2回 3. 週に1～2回 4. 週に3～4回
5. ほとんど毎日

食品名		現 在	妊娠前1年間(平均)
バター			
マーガリン			
フライ・てんぷら類			
野菜いため			
有色野菜	ニンジン・カボチャ		
	トマト		
	その他の緑黄色野菜（ほうれん草，春菊など）		
白色野菜	キャベツ・レタス		
	白菜		
	山菜（ワラビ，ゼンマイなど）		
	きのこ類・エノキタケ・シイタケ		
	いも類（サツマイモ，ジャガイモなど）		
	海草（のり，ワカメ，こんぶなど）		
	つけもの（たくわん，白菜づけなど）		
	佃煮類		
	煮豆		
とうふ			
みかん類			
天然果汁			
他の果物（どんなものでも可）			
菓子類（まんじゅう，ようかん，ケーキなど）			

一部で食材と献立が重複する部分があるこのような場合は、それぞれで独立して頻度を記入する。例えば、野菜いために週に3～4回食べ、このうち月に1～2回はニンジン・カボチャが入っている。これとは別にニンジン・カボチャを食べるので、ニンジン・カボチャは前記の野菜いためを含めて週に1～2回食べているとする。この場合には「野菜いための頻度は週に3～4回（4番），ニンジン・カボチャの頻度は週に1～2回（3番）」とする。

補足：I，II共に頻度を一覧表（A4用紙1枚程度か）にし、調査対象者に示し、この中から選んでもらう。目安量についてはフードモデル，写真などを用いた方がよい。

付表 I - 5. 1998年度出生時の情報調査票

厚生省厚生科学研究
「母乳中のダイオキシン類に関する研究」班

平成10年度母乳中のダイオキシン類調査 聞き取り調査票 (様式2)

母親氏名 : _____

乳児氏名 : _____ 男・女

乳児の生年月日 平成_____年_____月_____日

調査年月日 平成_____年_____月_____日

1. 妊娠・分娩の経過

在胎期間 : _____週 _____日

分娩胎位 : 1. 頭位 2. 骨盤位 3. その他 (_____)

帝王切開 : 1. なし 2. あり

妊娠合併症 : 1. なし 2. あり (_____)

2. 出生時の児の状態

出生時の計測値 : 体重 _____ g 身長 _____ cm

胸囲 _____ cm 頭囲 _____ cm

新生児仮死 : 1. なし
2. あり → アプガー・スコア _____点 (1分)

_____点 (5分)

3. 早期新生児期の状態

早期新生児期の異常 : 1. なし
2. あり (病名 : _____)

先天性代謝異常検査 : 1. 未実施
2. 実施済 → 結果 : 1. 異常なし
2. 要再検査
(項目 : _____)

付表 I - 6. 1998年度採乳時の調査票

厚生省厚生科学研究
「母乳中のダイオキシン類に関する研究」班

平成10年度母乳中のダイオキシン類調査 聞き取り調査票 (様式3)

母乳採取時調査

母親氏名： _____

乳児氏名： _____

(様式2を取り外さなければ、氏名は様式2のみでよい)

1. 調査年月日 (本調査票記入年月日) : 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

2. 母乳採取状況

a. 母乳採取ができなかった

理由： 転居，協力拒否，乳児の死亡，死産，母親の死亡

母乳の中止 (中止月日： _____ 月 _____ 日頃)

その他 (_____)

b. 母乳採取完了 (採取年月日： 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 日)

3. 出産後の母親の健康状況 (母乳が採取できなかった場合も記入する)

a. 疾患なし

b. 疾患あり (病名： _____)

4. 乳児の発育状況 (母乳が採取できなかった場合も記入する)

身体計測値 (出来るだけ直近のものを記入： 計測月日 _____ 月 _____ 日)

体重： _____ g 身長： _____ cm

胸囲： _____ cm 頭囲： _____ cm

栄養方法： 母乳 1. 与えている → 1日 _____ 回

2. 与えていない

人工乳 1. 与えている → 1回 _____ ml × 1日 _____ 回

2. 与えていない

乳児健診受診 1. なし 2. あり a. 異常なし
b. 異常あり (指摘事項： _____)

疾患の有無 1. なし 2. あり (病名 _____)

付表 I - 7. 乳幼児健康調査票 (1歳児用)

乳幼児健康調査票 (1歳児用)

(都府県名)

母親氏名：
 乳幼児氏名： 性別：男・女 出生体重： g
 生年月日： 月 日 (在胎 週 日または出産予定日 月 日)
 出生場所 (病院等の名称)：

I これまでにかかった病気：

II 現在までの発育・発達

1) 発育発達：

次のことが出来るようになったのはいつですか。

- | | | | | | |
|-----------|-----|---|-----------------|-----|---|
| (1) 首のすわり | ：生後 | 月 | (4) つかまり立ち | ：生後 | 月 |
| (2) 寝返り | ：生後 | 月 | (5) 伝い歩き | ：生後 | 月 |
| (3) お座り | ：生後 | 月 | (6) 一人歩き (2~3歩) | ：生後 | 月 |

2) 1歳の誕生日までに次の項目が出来れば○、出来なければ×、試みたことがなければ△をつけて下さい。

- | | | | |
|------------------------------------|----|---|----|
| (1) 「いけません」というと、ちょっと手をひっこめる。 | (○ | × | △) |
| (2) 「バイバイ」や「さよなら」に反応する。 | (○ | × | △) |
| (3) 「おいで」「ちょうだい」「ねんね」などを1つでも理解できる。 | (○ | × | △) |
| (4) 食物のことを「マンマ」という (他の有意義語でも良い)。 | (○ | × | △) |
| (5) ブラシ、鉛筆などを使うまねをする。 | (○ | × | △) |

III これまでの栄養状態を教えてください。

1) ほ乳方法はどうか。次の番号をカッコ内に入れて下さい。

- | | | |
|--------------|--------------|---------------------|
| 1. 母乳のみ | 2. 混合 (母乳が主) | 3. 混合 (母乳とミルクがほぼ等量) |
| 4. 混合 (人工が主) | 5. 人工栄養のみ | |
| 生後1ヶ月未満 | (ほ乳方法) | 6~7ヶ月未満 (ほ乳方法) |
| 1~2ヶ月 " | (ほ乳方法) | 7~8ヶ月 " (ほ乳方法) |
| 2~3ヶ月 " | (ほ乳方法) | 8~9ヶ月 " (ほ乳方法) |
| 3~4ヶ月 " | (ほ乳方法) | 9~10ヶ月 " (ほ乳方法) |
| 4~5ヶ月 " | (ほ乳方法) | 10~11ヶ月 " (ほ乳方法) |
| 5~6ヶ月 " | (ほ乳方法) | 11~12ヶ月 " (ほ乳方法) |

IV 予防接種の接種状況を母子健康手帳から書き写して下さい。

予防接種の種類	接種月日
---------	------

注意事項：調査予定日から2週間前以内に37.5℃以上の発熱や風邪をひいた場合又は予防接種を受けた場合には、必ず、下記までご連絡下さい。発熱や風邪が治りかつ予防接種日から2週間以上経過した日に調査日の変更を行います。
 ：母子健康手帳を忘れずにご持参下さい。

連絡先

TEL

付表 I - 8. 乳幼児健康調査 (問診票)

乳幼児健康調査 (問診票)

(都府県名)

母親氏名 :

乳幼児氏名 :

年 齢 : 歳 月 (満 1 歳 2 ヶ月未満)

採血問診日 : 月 日 (医療機関及び医師名)

①採血時よりさかのぼって2週間以内に37.5℃以上の発熱がある。 ある ない

②採血時よりさかのぼって2週間以内に風邪をひいた。 ある ない

③採血時よりさかのぼって1ヶ月以内に予防接種を受けた。 ある ない

母子健康手帳を確認し
誕生以来の全ての
予防接種を記入

予防接種の種類

接種月日

④過去に重い病気にかかったことがある。 ある ない
(「ある」の場合の病名 :)

⑤アレルギー疾患がある。 ある ない
(「ある」の場合の病名 :)

⑥採血時の体温 (℃)

⑦発育・発達状況

身体発育 (生後 月 日)

体重 g 身長 cm 頭囲 cm 胸囲 cm

「乳幼児健康調査票 (1歳児用) のII発育発達」について確認をし、必要に応じ
身体等のチェックを行う。

所見 ()

⑧これまでの栄養状況

「乳幼児健康調査票 (1歳児用) のIIIこれまでの栄養状況」について確認をし、
必要に応じ調査票を訂正する。

⑨その他特記事項 ()

注 : ①又は②で「ある」の場合、③において「ある」かつ1ヶ月以内にポリオや麻疹などの生ワクチンか2週間以内に生ワクチン以外の予防接種を受けた場合、⑤において37.5℃以上の体温がある場合は、いずれも当日の採血は中止し、予防接種又は37.5℃以上の発熱若しくは風邪が治ってから2週間以上期間を置いて改めて採血を行うこと。

* ただし、予防接種や発熱により、前述のと通りの調査日の設定がどうしても困難な場合には、免疫の調査は十分できないが、甲状腺機能の詞香等を行うことを保護者に伝え、調査日を設定する。

第2部 ダイオキシン類濃度の推移（産後日数別）

1. 対象

1997年度母乳濃度調査対象者 80人。

2. 方法

生後5日、30日、150日、300日の母乳を同一の母親から採取し、PCDDs、PCDFs、Co-PCBを計測した。観察項目はPCDDs + PCDFs、Co-PCB、PCDDs + PCDFs + Co-PCB（Co-PCBはいずれも3種類）である。

3. 結果の概要

a. 4回のダイオキシン類の分布（表Ⅱ-1、表Ⅱ-2）

生後5日目、30日目、150日目、300日目の計測人数、ダイオキシン類の分布（算術平均、標準偏差、幾何平均、中央値、最大値、最小値）を表Ⅱ-1に示す。出産から時間が経過するにつれてダイオキシン類の濃度が低下していた。

表Ⅱ-2に平均の差の検定結果（有意確率）を示す。一部の例外を除いて統計学的に有意な差が認められた。

b. 測定回ごとの濃度の相関（表Ⅱ-3）

同一回の観察物質相互間の相関は、後の観察ほど強くなる傾向が見られた。異なる回の同一物質間の相関は、間隔が離れるほど低くなっていた。

c. ダイオキシン類の相対度数分布（図Ⅱ-1～4）

すべての観察項目について、出産からの時間が経過するにつれて分布が低い方にシフトする傾向が見られた。

d. 4回計測した25人の濃度の時系列変化（図Ⅱ-5～7）

出産後300日までの4回とも計測し得た25人のダイオキシン類濃度分布の時系列変化を観察した。時間の経過と共に低下する傾向が観察された。

表Ⅱ-1. 生後5日目, 30日目, 150日目, 300日目の母乳中のダイオキシン類濃度分布

標本サイズ	5日目				30日目				150日目				300日目			
	80				72				45				25			
採乳日(日)																
脂肪濃度(%)	算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)			
脂肪1gあたり	PCDDs+PCDFs (pg TEQ/g fat)				PCDDs+PCDFs (pg TEQ/g fat)				PCDDs+PCDFs +Co-PCBs (pg TEQ/g fat)				PCDDs+PCDFs +Co-PCBs (pg TEQ/g fat)			
	算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)			
	幾何平均				幾何平均				幾何平均				幾何平均			
	中央値				中央値				中央値				中央値			
	最大値				最大値				最大値				最大値			
	最小値				最小値				最小値				最小値			
母乳100gあたり	算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)				算術平均(標準偏差)			
	幾何平均				幾何平均				幾何平均				幾何平均			
	中央値				中央値				中央値				中央値			
	最大値				最大値				最大値				最大値			
	最小値				最小値				最小値				最小値			

表Ⅱ-2. 濃度低下の統計学的検定結果

		30日目	150日目	300日目
5日目	PCDDs+PCDFs 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.040	p=0.025	p=0.000
		p=0.005	p=0.000	p=0.000
	Co-PCB 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.462	p=0.000	p=0.000
		p=0.000	p=0.000	p=0.000
30日目	PCDDs+PCDFs +Co-PCB 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.105	p=0.001	p=0.000
		p=0.021	p=0.000	p=0.000
	PCDDs+PCDFs 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.709	p=0.709	p=0.028
		p=0.540	p=0.540	p=0.007
	Co-PCB 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.000	p=0.000	p=0.000
		p=0.000	p=0.000	p=0.000
150日目	PCDDs+PCDFs +Co-PCB 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.026	p=0.026	p=0.000
		p=0.001	p=0.001	p=0.001
	PCDDs+PCDFs 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.037	p=0.037	p=0.037
		p=0.071	p=0.071	p=0.071
	Co-PCB 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.336	p=0.336	p=0.336
		p=0.706	p=0.706	p=0.706
300日目	PCDDs+PCDFs +Co-PCB 全対象者(t検定) ペアのみ(対のあるt検定)	p=0.089	p=0.089	p=0.089
		p=0.151	p=0.151	p=0.151

ダイオキシン類の濃度は対数変換値を用いた

表 II - 3. 相關係數

5日目	5日目		30日目	
	PCDDs+PCDFs	Co-PCB	PCDDs+PCDFs	Co-PCB
PCDDs+PCDFs	0.423 **	0.853 **	0.575 **	0.612 **
Co-PCB		0.833 **	0.450 **	0.586 **
PCDDs+PCDFs+Co-PCB			0.589 **	0.706 **
			0.580 **	
30日目			0.412 **	0.869 **
PCDDs+PCDFs				0.808 **
Co-PCB				
PCDDs+PCDFs+Co-PCB				
5日目	150日目		300日目	
	PCDDs+PCDFs	Co-PCB	PCDDs+PCDFs	Co-PCB
PCDDs+PCDFs	0.572 **	0.521 **	0.319	0.371
Co-PCB	0.267	0.338 *	0.182	0.405 *
PCDDs+PCDFs+Co-PCB	0.515 **	0.520 **	0.276	0.437 *
30日目				
PCDDs+PCDFs	0.343 *	0.195	0.221	0.162
Co-PCB	0.383 *	0.434 **	0.284	0.547 **
PCDDs+PCDFs+Co-PCB	0.428 **	0.356 *	0.275	0.374
150日目				
PCDDs+PCDFs	0.692 **	0.302 *	0.469 *	0.496 *
Co-PCB		0.448 **	0.445 *	0.617 **
PCDDs+PCDFs+Co-PCB		0.434 **	0.526 **	0.650 **
300日目				
PCDDs+PCDFs		0.924 **		0.943 **
Co-PCB		0.914 **		0.917 **
PCDDs+PCDFs+Co-PCB				

*p<0.05, **p<0.01

図 II - 1. 母乳中のダイオキシン類濃度の相対頻度(5日目, n=80)

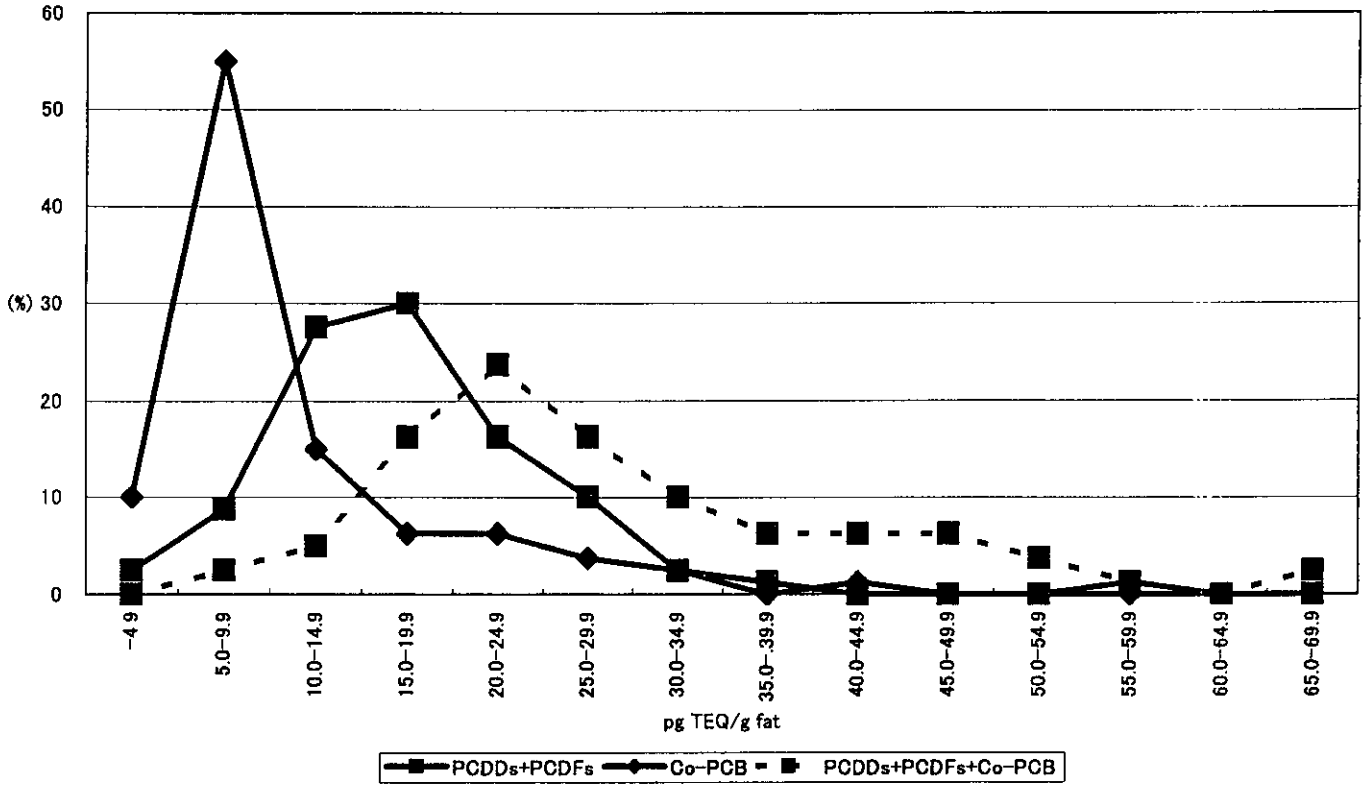
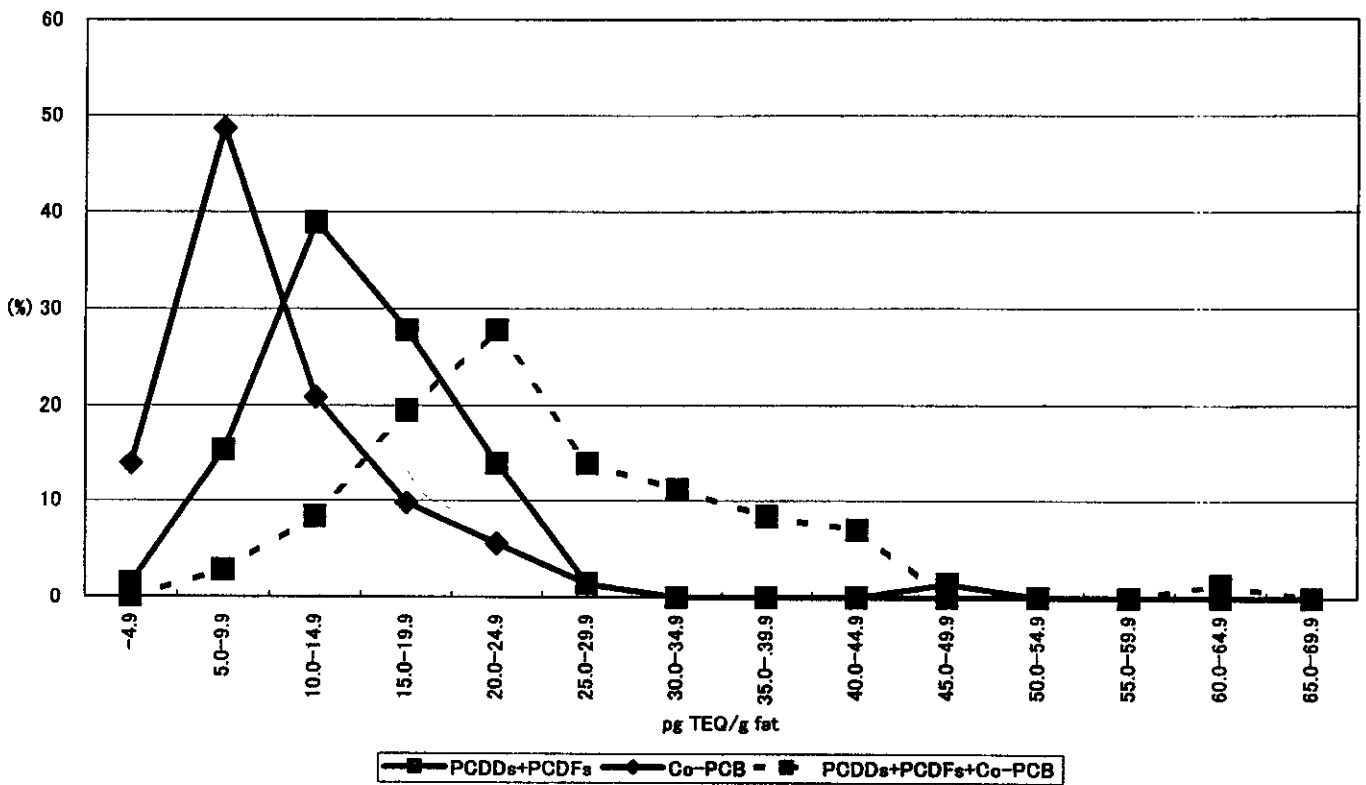
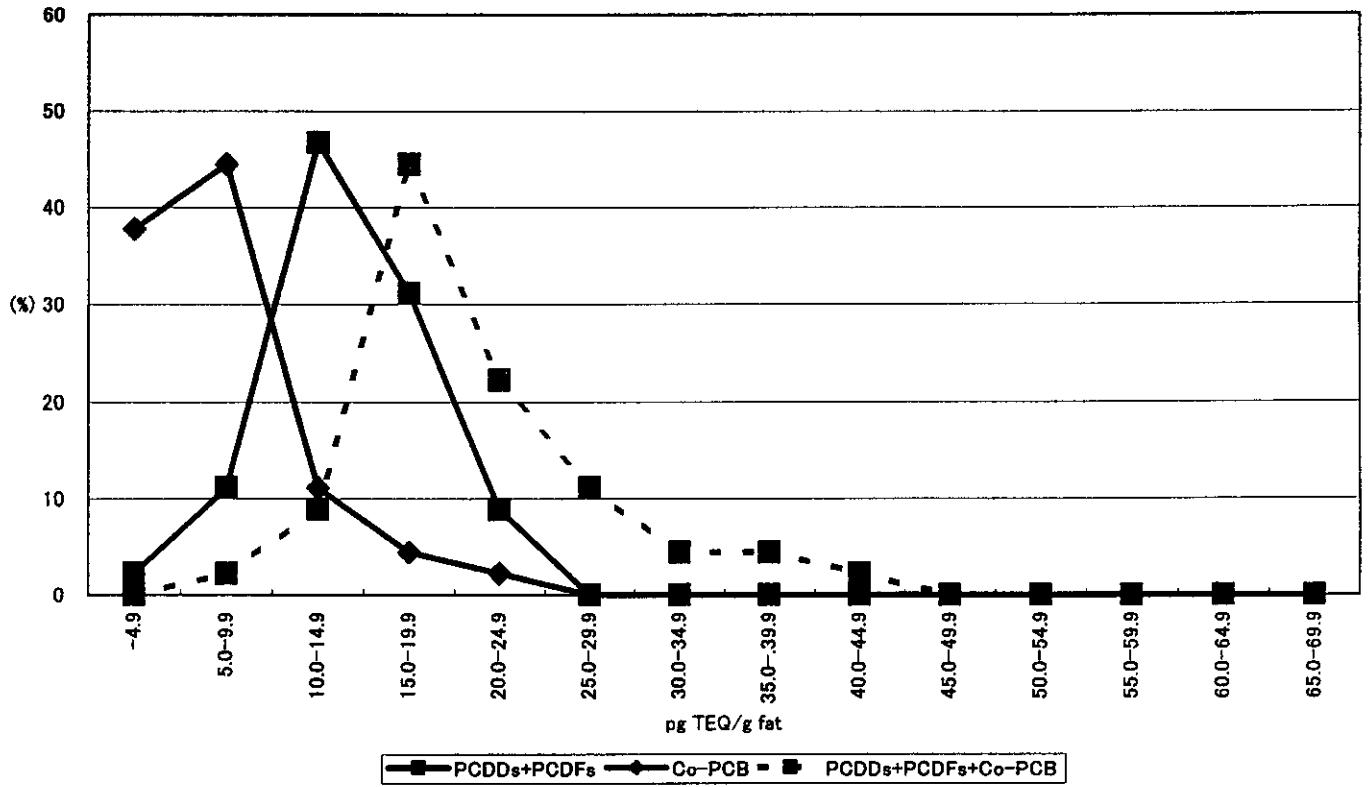


図 II - 2. 母乳中のダイオキシン類濃度の相対頻度(30日目, n=72)



図Ⅱ-3. 母乳中のダイオキシン類濃度の相対頻度(150日目, n=45)



図Ⅱ-4. 母乳中のダイオキシン類濃度の相対頻度(300日目, n=25)

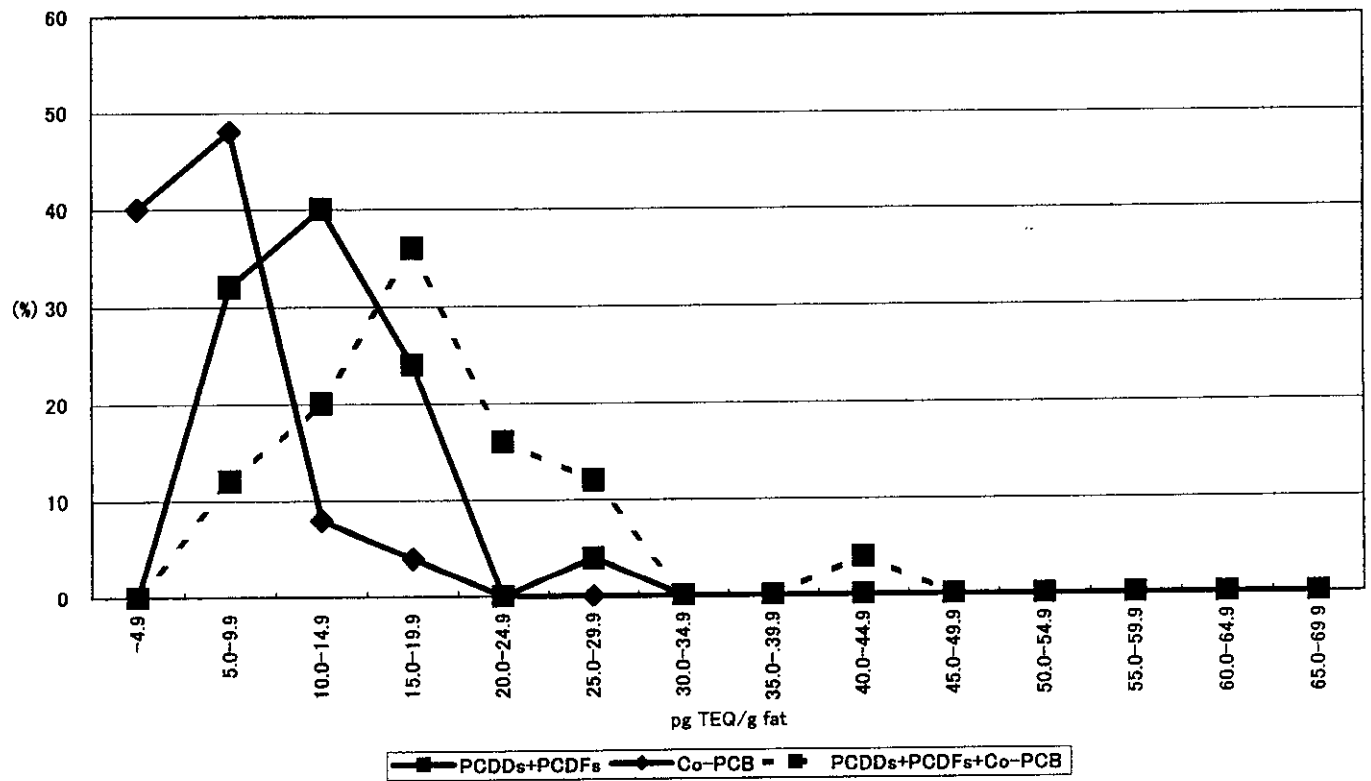


図 II - 5. PCDDs+PCDFsの時系列変化 (n=25)

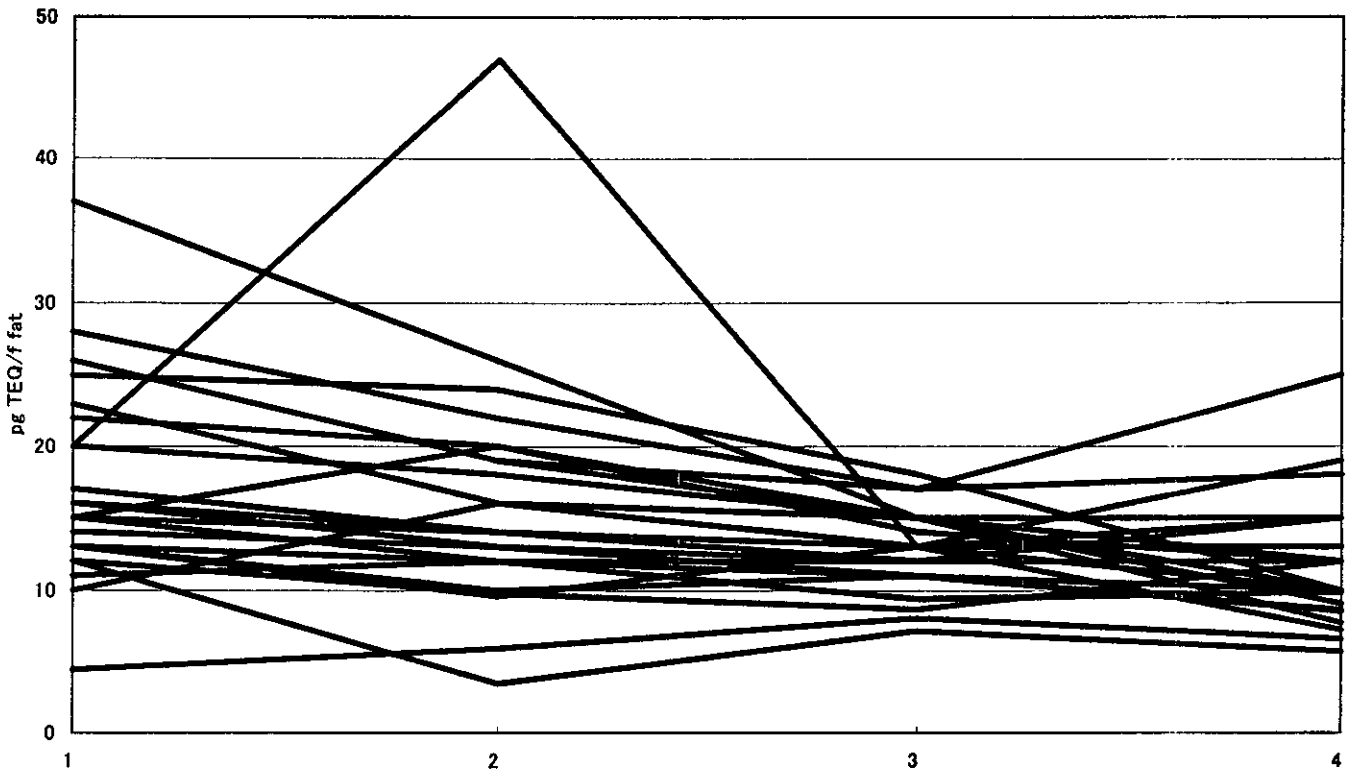


図 II - 6. Co-PCBの時系列変化 (n=25)

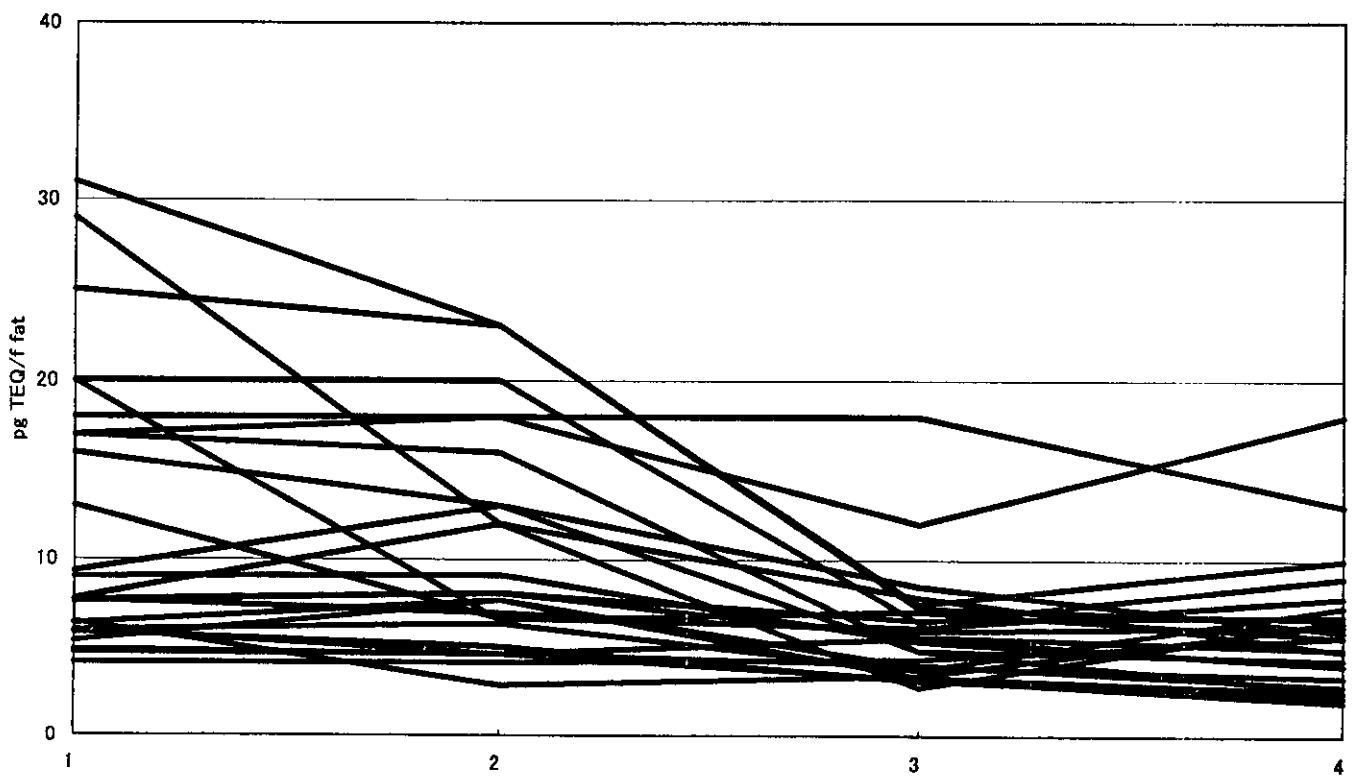
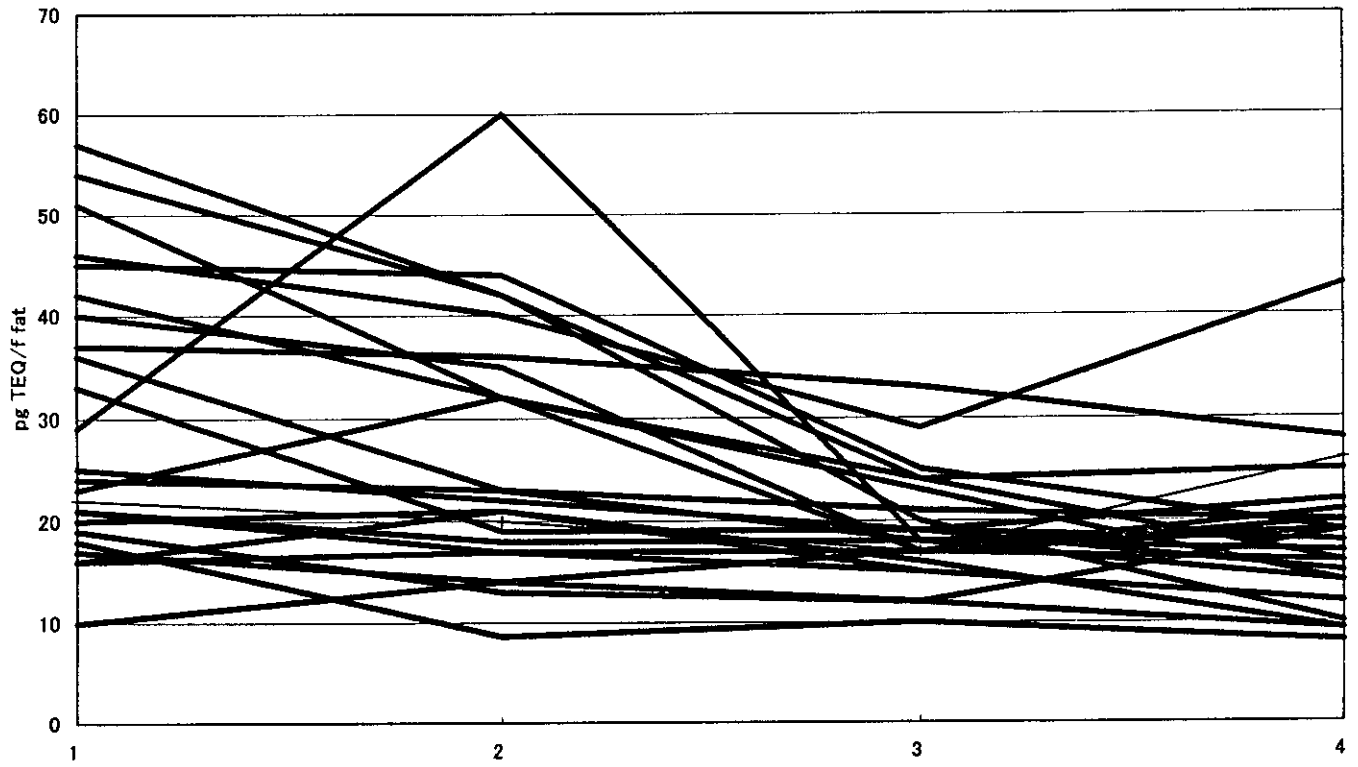


図 II - 7. PCDDS+PCDFs+Co-PCBの時系列変化 (n=25)



第3部 都道府県別ダイオキシン類濃度分布

1. 対象

1998年度母乳濃度調査対象者415人。これに加えて1997年度の対象者80人のうち、生後30日目の採乳ができた72人についても個別の解析を行った。

2. 方法

生後30日目の母乳を採取し、PCDDs, PCDFs, Co-PCBを計測した。観察項目はPCDDs + PCDFs, Co-PCB, PCDDs + PCDFs + Co-PCBである。Co-PCBについては12種類の異性体の計測を行ったが、従来からの3種類の異性体の観察結果も同時に解析した。なお、1997年度は3種類のCo-PCBの計測しか行っていないので、ここの部分の観察では3種類のものしかない。

3. 結果の概要（表Ⅲ-1, 図Ⅲ-1～5）

都道府県、年次別にダイオキシン類濃度の算術平均、標準偏差、幾何平均、中央値、最大値、最小値を示す。

また、1998年度の415人について、度数分布を図Ⅲ-1～5に示す。

表Ⅲ-1. 年齢、脂肪濃度、ダイオキシン類の分布(都道府県別、その1)
母親の年齢(出産 母乳日(出産後、
時、歳) 日)

		脂肪濃度(%)		PCDDs+PCDFs		Co-PCB(3種)		Co-PCB(12種)		PCDDs+PCDFs+Co-PCB(3種)		PCDDs+PCDFs+Co-PCB(12種)	
岩手県(1998年度)													
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	29.5	30.0	3.7	9.1	5.5	8.4	14.5	17.6	17.6	17.6	17.6	17.6	17.6
標準偏差	2.9	0.2	1.0	2.5	1.8	2.6	4.1	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9
幾何平均	29.4	29.9	3.5	8.7	5.2	8.0	14.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
中央値	29.5	30.0	3.7	8.8	5.0	7.9	14.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0	17.0
最大値	35.0	30.0	6.7	15.7	11.0	17.0	27.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0	33.0
最小値	25.0	29.0	1.9	3.9	3.1	4.8	8.2	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)													
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)													
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	33.3	30.6	53.2	64.5	22.9	18.8	49.5	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0	60.0
標準偏差	11.8	8.0	18.5	28.4	27.0	50.6	91.8	112.2	112.2	112.2	112.2	112.2	112.2
幾何平均	30.8	28.4	27.0	57.8	12.0	15.6	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0
中央値	32.2	27.0	27.0	57.8	12.0	15.6	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0
最大値	56.1	37.4	8.2	7.4	8.2	12.0	15.6	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0
最小値	7.4	8.2	12.0	15.6	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0	19.0
脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)													
宮城県(1998年度)													
標本サイズ	20	18	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	29.0	29.8	4.7	11.0	6.0	9.4	17.1	20.5	20.5	20.5	20.5	20.5	20.5
標準偏差	2.9	0.4	1.4	3.3	2.8	4.1	5.8	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0
幾何平均	28.9	29.8	4.5	10.5	5.2	8.4	16.0	19.2	19.2	19.2	19.2	19.2	19.2
中央値	28.5	30.0	4.2	10.7	5.9	9.0	18.0	20.5	20.5	20.5	20.5	20.5	20.5
最大値	34.0	30.0	9.8	16.3	11.0	16.0	27.0	32.0	32.0	32.0	32.0	32.0	32.0
最小値	25.0	29.0	3.0	5.0	1.3	2.6	6.3	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6
脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)													
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)													
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	51.5	27.3	43.1	79.0	94.7	39.5	85.8	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0	95.0
標準偏差	21.8	13.6	20.2	37.8	71.6	76.6	143.0	169.0	169.0	169.0	169.0	169.0	169.0
幾何平均	47.1	23.5	44.1	84.0	109	26.5	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9
中央値	44.6	27.5	44.1	84.0	109	26.5	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9
最大値	98.2	53.8	84.0	143.0	169.0	169.0	169.0	169.0	169.0	169.0	169.0	169.0	169.0
最小値	21.0	5.5	10.9	26.5	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9	31.9

数値を丸めて計算した関係で、PCDDs+PCDFsとCo-PCBの合計がPCDDs+PCDFs:Co-PCBの数値と多少異なることがある。

表Ⅱ-1. 年齢、脂肪濃度、ダイオキシン類の分布(都道府県別、その2)
 母親の年齢(出産時、歳) 母乳日(出産後、日)

	時、歳)	母乳日(出産後、日)	脂肪濃度(%)		PCDDs+PCDFs	Co-PCB(3種)	Co-PCB(12種)	PCDDs+PCDFs+Co-PCB(3種)		PCDDs+PCDFs+Co-PCB(12種)	
			脂肪濃度(%)	脂肪濃度(%)				脂肪1gあたり(pg TEQ/g fat)	脂肪1gあたり(pg TEQ/g fat)	脂肪1gあたり(pg TEQ/g fat)	脂肪1gあたり(pg TEQ/g fat)
秋田県(1998年度)											
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	28.9	30.0	3.6	9.2	6.9	10.4	16.1	19.7	19.7	4.8	19.7
標準偏差	2.9	0.2	1.0	2.7	2.1	2.8	4.1	4.1	4.1	4.8	4.8
幾何平均	28.7	29.9	3.5	8.9	6.6	10.0	15.6	15.6	15.6	19.1	19.1
中央値	29.0	30.0	3.6	8.1	6.5	10.0	15.5	15.5	15.5	19.0	19.0
最大値	33.0	30.0	5.5	15.2	11.0	16.0	24.0	24.0	24.0	30.0	30.0
最小値	25.0	29.0	1.6	6.0	3.3	6.1	11.0	11.0	11.0	14.0	14.0
脂肪100gあたり(pg TEQ/100g milk)											
標本サイズ				20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均				33.9	24.7	37.2	58.1	71.2	71.2	26.9	71.2
標準偏差				15.4	9.1	13.5	22.5	26.9	26.9	6.5	26.9
幾何平均				30.9	23.0	34.9	54.2	66.5	66.5	6.5	66.5
中央値				28.8	23.9	34.1	53.4	68.1	68.1	6.5	68.1
最大値				72.6	43.0	68.8	110.0	129.0	129.0	6.5	129.0
最小値				12.6	11.9	18.9	25.2	31.5	31.5	6.5	31.5
茨城県(1998年度)											
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	37.2	30.2	3.9	13.1	5.8	9.7	19.0	23.0	23.0	10.4	23.0
標準偏差	13.5	0.5	1.1	7.0	2.6	4.3	8.7	10.4	10.4	20.8	20.8
幾何平均	34.9	30.1	3.8	11.6	5.4	8.9	17.3	20.8	20.8	19.0	19.0
中央値	34.1	30.0	3.9	10.5	5.2	8.9	16.0	19.0	19.0	49.0	49.0
最大値	68.8	31.0	6.8	31.9	15.0	24.0	40.0	49.0	49.0	8.0	8.0
最小値	18.9	29.0	2.2	4.7	2.4	3.3	7.1	8.0	8.0	8.0	8.0
脂肪100gあたり(pg TEQ/100g milk)											
標本サイズ				20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均				51.5	22.2	37.4	74.2	89.4	89.4	40.0	89.4
標準偏差				29.0	8.3	14.2	33.7	40.0	40.0	79.0	79.0
幾何平均				44.0	20.3	33.8	65.6	88.7	88.7	197.4	197.4
中央値				47.7	21.8	36.7	73.6	88.7	88.7	15.6	15.6
最大値				149.9	39.0	62.4	169.2	197.4	197.4	15.6	15.6
最小値				10.3	5.3	7.3	15.6	17.6	17.6	15.6	15.6

数値を丸めて計算した関係で、PCDDs+PCDFsとCo-PCBの合計がPCDDs+PCDFs、Co-PCBの数値と多少異なることがある。

表Ⅲ-1. 年齢、脂肪濃度、ダイオキシン類の分布(都道府県別、その3)
母親の年齢(出産時、歳) 母乳日(出産後、日)

	時、歳	母乳日(出産後、日)	脂肪濃度(%)			PCDDs+PCDFs			Co-PCB(3種)			PCDDs+PCDFs+Co-PCB(12種)			PCDDs+PCDFs+Co-PCB(12種)			
			20	30.2	30.0	20	13.7	20	20	5.6	20	20	19.3	20	20	20	20	
群馬県(1998年度)																		
標本サイズ	29.6	30.2	20	3.5	20	20	5.6	20	20	9.3	20	20	20	20	20	20	20	
算術平均	2.7	0.5	3.4	1.0	3.4	13.7	2.3	3.6	5.3	8.7	19.3	5.3	19.3	5.3	5.3	19.3	23.0	
標準偏差	29.4	30.2	3.4	3.4	13.2	3.4	5.2	8.7	18.6	8.5	18.6	18.6	18.6	18.6	18.6	18.6	6.7	
幾何平均	29.5	30.0	3.5	3.5	13.8	3.5	5.3	8.5	18.5	18.0	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	18.5	22.0	
中央値	33.0	32.0	5.6	5.6	19.3	5.6	11.0	18.0	29.0	5.0	29.0	29.0	29.0	29.0	29.0	29.0	36.0	
最大値	25.0	30.0	1.7	1.7	7.3	7.3	2.6	5.0	11.0	5.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	11.0	12.0	
最小値																		
千葉県(1998年度)																		
標本サイズ	29.1	30.0	20	3.4	20	20	19.2	20	20	32.2	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	2.1	0.0	4.3	1.2	4.4	47.6	8.9	14.2	66.9	24.3	66.9	66.9	66.9	66.9	66.9	66.9	79.7	
標準偏差	29.0	30.0	3.2	3.2	50.3	16.6	17.3	29.2	24.3	62.4	24.3	24.3	24.3	24.3	24.3	24.3	29.7	
幾何平均	29.5	30.0	3.3	3.3	79.6	16.7	16.7	28.8	65.8	77.3	65.8	65.8	65.8	65.8	65.8	65.8	74.0	
中央値	32.0	30.0	7.0	7.0	18.3	18.3	40.9	59.8	119.6	138.0	119.6	119.6	119.6	119.6	119.6	119.6	138.0	
最大値	25.0	30.0	1.4	1.4	8.0	8.0	8.5	12.5	27.5	30.0	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	30.0	
最小値																		
千葉県(1998年度)																		
標本サイズ	29.1	30.0	20	3.4	20	20	19.2	20	20	32.2	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	2.1	0.0	4.3	1.2	4.4	47.6	8.9	14.2	66.9	24.3	66.9	66.9	66.9	66.9	66.9	66.9	79.7	
標準偏差	29.0	30.0	3.2	3.2	50.3	16.6	17.3	29.2	24.3	62.4	24.3	24.3	24.3	24.3	24.3	24.3	29.7	
幾何平均	29.5	30.0	3.3	3.3	79.6	16.7	16.7	28.8	65.8	77.3	65.8	65.8	65.8	65.8	65.8	65.8	74.0	
中央値	32.0	30.0	7.0	7.0	18.3	18.3	40.9	59.8	119.6	138.0	119.6	119.6	119.6	119.6	119.6	119.6	138.0	
最大値	25.0	30.0	1.4	1.4	8.0	8.0	8.5	12.5	27.5	30.0	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	30.0	
最小値																		
千葉県(1998年度)																		
標本サイズ	29.1	30.0	20	3.4	20	20	19.2	20	20	32.2	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	2.1	0.0	4.3	1.2	4.4	47.6	8.9	14.2	66.9	24.3	66.9	66.9	66.9	66.9	66.9	66.9	79.7	
標準偏差	29.0	30.0	3.2	3.2	50.3	16.6	17.3	29.2	24.3	62.4	24.3	24.3	24.3	24.3	24.3	24.3	29.7	
幾何平均	29.5	30.0	3.3	3.3	79.6	16.7	16.7	28.8	65.8	77.3	65.8	65.8	65.8	65.8	65.8	65.8	74.0	
中央値	32.0	30.0	7.0	7.0	18.3	18.3	40.9	59.8	119.6	138.0	119.6	119.6	119.6	119.6	119.6	119.6	138.0	
最大値	25.0	30.0	1.4	1.4	8.0	8.0	8.5	12.5	27.5	30.0	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	27.5	30.0	
最小値																		

数値を丸めて計算した関係で、PCDDs+PCDFsとCo-PCBの合計がPCDDs+PCDFs+Co-PCBの数値と多少異なることがある。

表Ⅱ-1. 年齢、脂肪濃度、ダイオキシン類の分布(都道府県別、その4)
 母親の年齢(出産時、歳) 母乳日(出産後、日)

	時、歳)	母乳日(出産後、日)	脂肪濃度(%)		PCDDs+PCDFs	Co-PCB(3種)	Co-PCB(12種)	PCDDs+PCDFs+Co-PCB(3種)	PCDDs+PCDFs+Co-PCB(12種)	-PCB(12種)
			20	20						
神奈川県(1998年度, 1. 藤沢市)										
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	29.4	29.7	3.7	14.3	26.6	7.2	41.9	11.3	21.5	25.6
標準偏差	2.7	0.7	0.9	4.6	13.5	3.1	19.9	4.5	7.3	8.9
幾何平均	29.2	29.6	3.6	13.6	23.3	6.5	37.2	10.5	20.2	24.0
中央値	29.5	30.0	3.6	14.0	26.9	6.7	42.5	10.5	22.0	26.0
最大値	34.0	31.0	6.1	25.0	59.2	16.0	88.8	24.0	41.0	49.0
最小値	25.0	29.0	2.4	5.5	9.6	2.6	17.4	4.7	8.1	10.0
母乳100gあたり (pg TEQ/g fat)										
神奈川県(1998年度, 2. 相模原市)										
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	29.3	30.0	4.1	14.1	26.6	6.6	41.9	10.5	20.7	24.7
標準偏差	2.9	0.2	0.9	4.4	13.5	2.0	19.9	3.1	5.9	7.0
幾何平均	29.2	29.9	4.0	13.4	23.3	6.3	37.2	10.0	19.7	23.6
中央値	29.5	30.0	3.9	14.4	26.9	6.5	42.5	11.0	21.5	26.5
最大値	34.0	30.0	5.8	24.0	59.2	10.0	88.8	16.0	31.0	36.0
最小値	25.0	29.0	2.7	7.2	9.6	3.2	17.4	5.5	11.0	13.0
母乳100gあたり (pg TEQ/g fat)										
神奈川県(1998年度, 2. 相模原市)										
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	29.4	29.7	3.7	14.3	26.6	7.2	41.9	11.3	21.5	25.6
標準偏差	2.7	0.7	0.9	4.6	13.5	3.1	19.9	4.5	7.3	8.9
幾何平均	29.2	29.6	3.6	13.6	23.3	6.5	37.2	10.5	20.2	24.0
中央値	29.5	30.0	3.6	14.0	26.9	6.7	42.5	10.5	22.0	26.0
最大値	34.0	31.0	6.1	25.0	59.2	16.0	88.8	24.0	41.0	49.0
最小値	25.0	29.0	2.4	5.5	9.6	2.6	17.4	4.7	8.1	10.0
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)										
神奈川県(1998年度, 2. 相模原市)										
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	29.3	30.0	4.1	14.1	26.6	6.6	41.9	10.5	20.7	24.7
標準偏差	2.9	0.2	0.9	4.4	13.5	2.0	19.9	3.1	5.9	7.0
幾何平均	29.2	29.9	4.0	13.4	23.3	6.3	37.2	10.0	19.7	23.6
中央値	29.5	30.0	3.9	14.4	26.9	6.5	42.5	11.0	21.5	26.5
最大値	34.0	30.0	5.8	24.0	59.2	10.0	88.8	16.0	31.0	36.0
最小値	25.0	29.0	2.7	7.2	9.6	3.2	17.4	5.5	11.0	13.0
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)										
神奈川県(1998年度, 2. 相模原市)										
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	29.4	29.7	3.7	14.3	26.6	7.2	41.9	11.3	21.5	25.6
標準偏差	2.7	0.7	0.9	4.6	13.5	3.1	19.9	4.5	7.3	8.9
幾何平均	29.2	29.6	3.6	13.6	23.3	6.5	37.2	10.5	20.2	24.0
中央値	29.5	30.0	3.6	14.0	26.9	6.7	42.5	10.5	22.0	26.0
最大値	34.0	31.0	6.1	25.0	59.2	16.0	88.8	24.0	41.0	49.0
最小値	25.0	29.0	2.4	5.5	9.6	2.6	17.4	4.7	8.1	10.0
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)										

数値を丸めて計算した関係で、PCDDs+PCDFsとCo-PCBの合計がPCDDs+PCDFs+Co-PCBの数値と多少異なるところがある。

表Ⅱ-1. 年齢、脂肪濃度、ダイオキシン類の分布(都道府県別、その5)
母親の年齢(出産 採乳日(出産後、
時、歳) 日)

	時、歳	日	脂肪濃度(%)	PCDDs+PCDFs	Co-PCB(3種)	Co-PCB(12種)	PCDDs+PCDFs+Co-PCB(3種)		PCDDs+PCDFs+Co-PCB(12種)	
							脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)	-PCB(3種)	脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)	-PCB(12種)
神奈川県(1998年度、全体)										
標本サイズ	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
算術平均	29.3	29.8	3.9	14.2	6.9	10.9	10.9	21.1	21.1	25.2
標準偏差	2.8	0.5	1.0	4.5	2.6	3.9	3.9	6.7	6.7	8.0
幾何平均	29.2	29.8	3.8	13.5	6.4	10.2	10.2	20.0	20.0	23.8
中央値	29.5	30.0	3.7	14.4	6.5	11.0	11.0	22.0	22.0	26.5
最大値	34.0	31.0	6.1	25.0	16.0	24.0	24.0	41.0	41.0	49.0
最小値	25.0	29.0	2.4	5.5	2.6	4.7	4.7	8.1	8.1	10.0
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)										
標本サイズ				40	40	40	40	40	40	40
算術平均				54.9	27.0	42.8	42.8	81.7	81.7	97.7
標準偏差				19.7	12.3	18.8	18.8	30.5	30.5	37.2
幾何平均				50.9	24.2	38.7	38.7	75.4	75.4	89.9
中央値				53.6	25.4	40.6	40.6	80.9	80.9	99.0
最大値				92.5	59.2	88.8	88.8	151.7	151.7	181.3
最小値				19.7	9.6	16.2	16.2	29.7	29.7	35.1
新潟県(1998年度)										
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	28.7	30.1	3.6	10.4	5.7	9.1	9.1	16.2	16.2	19.6
標準偏差	2.2	0.2	0.8	2.4	2.0	3.0	3.0	4.3	4.3	5.1
幾何平均	28.6	30.0	3.5	10.1	5.3	8.5	8.5	15.6	15.6	18.9
中央値	29.5	30.0	3.8	9.8	5.1	8.2	8.2	15.0	15.0	18.0
最大値	32.0	31.0	5.1	15.5	9.9	14.0	14.0	25.0	25.0	29.0
最小値	25.0	30.0	1.2	5.4	2.4	3.6	3.6	7.8	7.8	9.0
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)										
標本サイズ				20	20	20	20	20	20	20
算術平均				37.6	20.4	32.2	32.2	58.6	58.6	70.5
標準偏差				12.4	8.2	11.8	11.8	20.1	20.1	23.4
幾何平均				35.2	18.7	29.8	29.8	54.5	54.5	65.8
中央値				38.3	19.5	32.6	32.6	56.6	56.6	70.4
最大値				61.6	39.6	56.0	56.0	100.0	100.0	116.0
最小値				13.3	6.2	9.4	9.4	20.3	20.3	23.4

数値を丸めて計算した関係で、PCDDs+PCDFsとCo-PCBの合計がPCDDs+PCDFs+Co-PCBの数値と多少異なることがある。

表Ⅲ-1. 年齢、脂肪濃度、ダイオキシン類の分布(都道府県別、その6)
 母親の年齢(出産 採乳日(出産後、

	時、歳	日	脂肪濃度(%)		PCDDs+PCDFs	Co-PCB(3種)	Co-PCB(12種)	PCDDs+PCDFs+Co-PCB(3種)		PCDDs+PCDFs+Co-PCB(12種)	
			脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)	脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)				脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)	脂肪1gあたり (pg TEQ/g fat)		
石川県(1998年度)											
標本サイズ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
算術平均	29.4	32.6	3.6	8.3	4.3	6.9	12.6	15.3	15.3	15.3	15.3
標準偏差	3.6	1.7	1.2	4.0	2.2	3.6	6.3	7.6	7.6	7.6	7.6
幾何平均	29.2	32.6	3.4	7.5	3.9	6.2	11.4	13.7	13.7	13.7	13.7
中央値	30.0	32.0	3.3	7.0	3.5	5.8	10.5	13.0	13.0	13.0	13.0
最大値	35.0	36.0	5.9	17.8	9.5	18.0	28.0	34.0	34.0	34.0	34.0
最小値	25.0	31.0	1.6	3.0	2.2	3.4	5.2	6.4	6.4	6.4	6.4
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)											
標本サイズ	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
算術平均	29.2	32.6	14.6	29.2	14.6	24.1	44.0	53.7	53.7	53.7	53.7
標準偏差	15.6	7.6	7.6	15.6	7.6	13.6	23.6	29.7	29.7	29.7	29.7
幾何平均	25.1	30.8	13.0	25.1	13.0	20.8	38.2	46.3	46.3	46.3	46.3
中央値	26.2	30.6	12.7	26.2	12.7	20.6	39.5	47.3	47.3	47.3	47.3
最大値	62.3	33.3	33.3	62.3	33.3	56.0	98.0	119.0	119.0	119.0	119.0
最小値	8.7	6.4	6.4	8.7	6.4	9.9	15.1	18.6	18.6	18.6	18.6
山梨県(1998年度)											
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	28.9	29.9	4.5	13.6	6.2	9.9	20.0	23.7	23.7	23.7	23.7
標準偏差	2.3	0.5	1.6	4.2	2.5	3.9	6.4	7.6	7.6	7.6	7.6
幾何平均	28.8	29.8	4.2	12.9	5.8	9.2	18.9	22.4	22.4	22.4	22.4
中央値	29.5	30.0	4.5	12.9	5.2	8.5	18.5	21.5	21.5	21.5	21.5
最大値	33.0	31.0	8.1	24.0	11.0	17.0	35.0	40.0	40.0	40.0	40.0
最小値	24.0	29.0	2.1	4.7	2.6	3.6	7.3	8.3	8.3	8.3	8.3
母乳100gあたり (pg TEQ/100g milk)											
標本サイズ	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
算術平均	61.2	28.9	45.9	61.2	45.9	91.1	108.0	108.0	108.0	108.0	108.0
標準偏差	28.2	15.9	24.9	28.2	24.9	44.4	52.6	52.6	52.6	52.6	52.6
幾何平均	54.2	24.1	38.4	54.2	38.4	79.3	93.8	93.8	93.8	93.8	93.8
中央値	60.7	26.6	42.6	60.7	42.6	92.5	107.0	107.0	107.0	107.0	107.0
最大値	111.8	84.7	84.7	111.8	84.7	170.1	194.4	194.4	194.4	194.4	194.4
最小値	20.7	7.5	13.2	20.7	7.5	30.8	36.5	36.5	36.5	36.5	36.5

数値を丸めて計算した関係で、PCDDs+PCDFsとCo-PCBの合計がPCDDs+PCDFs+Co-PCBの数値と多少異なることがある。